

4-8

演題 わたしたちの”想い”をかなえる第1歩

副題 ～「働きやすい職場づくり」の5年間の歩み～

想いを叶える

生産性向上

法人名 社会福祉法人 神奈川県社会福祉事業団

施設名 横須賀老人ホーム

発表者名
(職種) 永野 寛
その他

共同発表者 宮崎 和久

共同発表者 岡崎 紗季

共同発表者 職員一同

共同発表者

都道府県 神奈川県

住所 横須賀市野比 5-5-6

TEL 046-848-1761

FAX 046-848-6866

メールアドレス yokosuka-kanri@kanagawa-swc.com

URL kanagawa-swc.com/yokosuka/

今回の発表施設 またはサービスの 概要

当ホームは昭和46年に開所し、「かなえる介護を横老で」を合言葉に、特養・盲養護・通所介護・短期入所・訪問介護・居宅介護支援・地域包括支援センター・付属診療所など、高齢者総合福祉施設として、介護サービスを提供している。

研究の目的、PRポイント

「働く人のモチベーション向上」と「働きやすい職場作り」を目的に、私達が5年間取り組んできた「風通しの良い・働きやすい職場作りを目指した」生産性向上につながる取り組みとして紹介する。

取り組んだ課題

平成31年4月の経営体制変更に伴い、風通しの良い職場作りの方針のもと、令和元年5月～8月にかけて、正規職員103名全員と面接を行った所、7割が不満だった。不満には職員の想いがあり具体化することによって、職員の満足度が上がると考え、職員に「不満」を「提案」に変えてほしいと伝え、令和元年9月に50の提案が提出された。提案を計画としてまとめ、213ページの「リバイバルアクションプラン2019」が完成した。令和元年10月「リバイバル会議」を立ち上げ、職場改善について毎月話し合いを行っている。

具体的な取り組み

《先行実施》

①職員提案制度、②提案箱設置、③本部との意見交換《リバイバルアクションプランの主な内容(抜粋)》

①診療所長の往診・会議の出席、②喫煙のルール化、③アニマルセラピー、④ブランド化、⑤所長室廃止、⑥ICT機器活用(眠りスキャン)、⑦残業内容の精査、⑧プライバシー保護のための改修、⑨医療に強い施設、⑩個別機能訓練の方向性、⑪大規模修繕・備品の更新、⑫入浴介助のスポット採用、⑬尿取りパットの適正使用、⑭職員ボランティアの受け入れ、⑮賞与に感謝をこめて、⑯人材育成担当の配置、⑰利用率向上の取り組み、⑱フロアの預り金を事務所対応、⑲介護フロアAB統合、⑳土日・休日勤務、㉑介護員のケアマネ業務負担軽減、㉒公休・年休を活用したリフレッシュ休暇制度、㉓収入状況を職員に知ってもらう機会を作る

《その他主な提案》

①経験年数が近い職員の交流の場、②出棺時のお見送り、③見えにくい経費を意識する、④通勤困難な

介護職員勤務配慮制度、⑤子ども図書館、⑥特養1床増床、⑦図書コーナー、⑧リモートアクセスツール、⑨見守り支援ベッドシステム、⑩つながりグループ通所、⑪褥瘡ケアプロジェクト、⑫衣類販売(選ぶ楽しみ)

活動の成果と評価

①リバイバル会議を計35回実施、②リバイバルアクションプラン50項目中33実施、③職員提案箱を設置、④「横老リフレッシュ休暇」のR2年度の取得率は91.6%、⑤「早番勤務配慮制度」を創設し2名が利用、⑥朝ミーティング見直しで、コスト削減と転倒事故の減少、⑦冬の賞与時に全職員約250名に感謝の手紙を手渡し、感謝状と記念品を贈呈、⑧時間外の再ルールを統一した結果、令和2年度は元年度に比べ減少、⑨紙おむつのサイズの適正使用を徹底し、令和2年度は元年度に比べコストを削減、⑩「出棺時のお見送りについて」多くの職員がお見送りができるための体制を作った、⑪通所介護の相談員にアンケート・座談会を行い、「つながりグループ」を立ち上げた、⑫眠りスキャンの導入で、適切なタイミングでのトイレ誘導や職員の負担軽減になった、⑬令和4年度にセンサー内臓型ベッドを導入した、⑭多床室のプライバシー保護のため改修を行った、⑮個別機能訓練指導員の助言を得ながら、適切なポジショニングを実践し、褥瘡診断者数は前年度比6.4%減少、⑯法人本部(役員)と職員との意見交換会を開催

今後の課題

①分野ごとにメンバーを整理する。②1つ1つの提案を精査し質を高める。③取り組みの再周知。④若い人が意見しやすい環境作り。⑤提案後、どうなったかを検証。

参考資料など

人事実務 2017年8月号『風通しの良い職場づくりの3要素』長谷川晃大